

ハハコグサ(母子草)は肥満や痛風も抑制する

<作成:stnv基礎医学研究室>

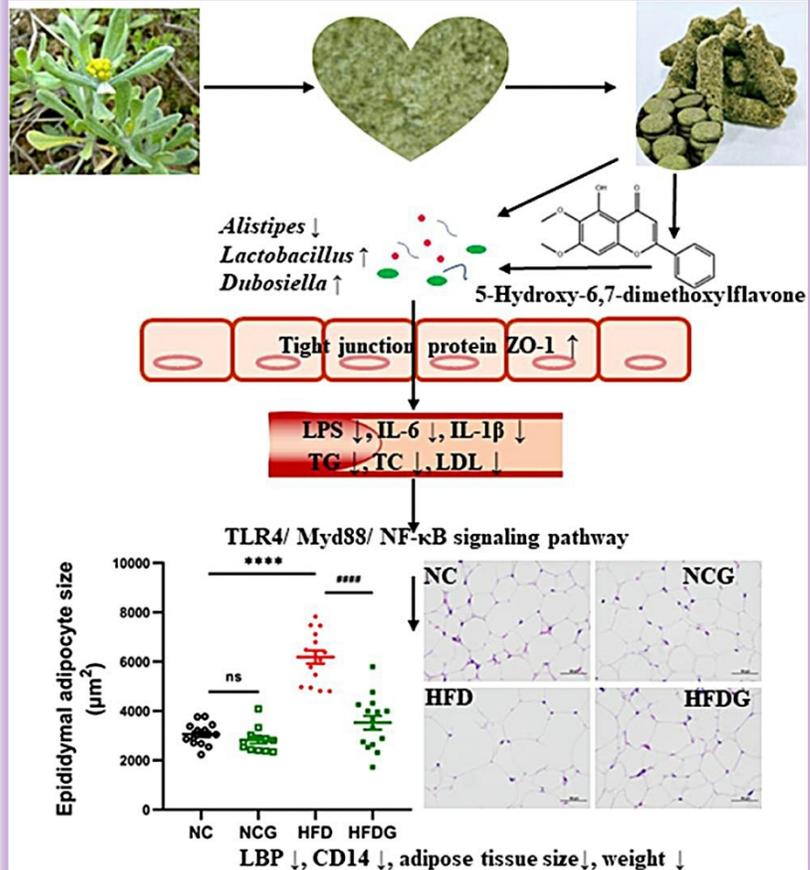
— 抗痛風(抗高尿酸血症と抗急性痛風性関節炎)作用 —

ハハコグサ(母子草) 別名:御形(ごぎょう、おぎょう)

学名: *Pseudognaphalium affine* (D.Don)Anderb.

旧学名: *Gnaphalium affine* D. Don

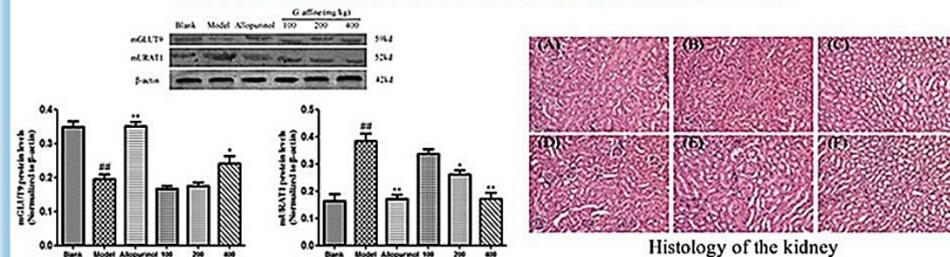
抗肥満作用



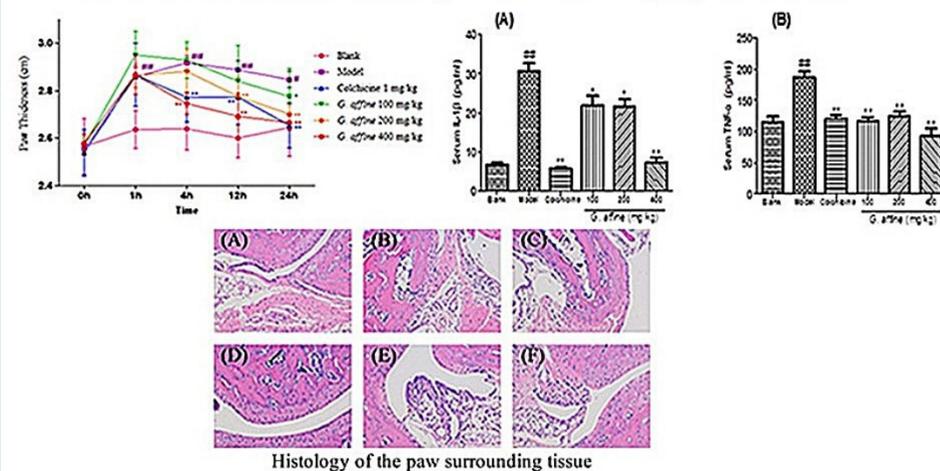
(原図の出典: Journal of Functional Foods, Volume 116, May 2024, 106195)

ハハコグサ(のサプリメント)は、5-ヒドロキシ-6,7-ジメトキシフラボンをはじめとする多種類のフラボノイドを多く含んでおり、これが高脂肪食を与えられたマウスの腸内細菌叢を改善すると共に、タイトジャンクションタンパク質(ZO-1)のアップレギュレーションを通じて、腸管バリア機能と免疫機能を高め、リポ多糖(LPS)レベルを低下させ、LPS/Toll様受容体4(TLR4)/Myd88/NF-κB経路での炎症誘発を阻害した。これらにより、高脂肪食による酸化ストレス、炎症、脂肪蓄積、肥満が抑制された。

Effects of *G. affine* on the PO induced hyperuricemia mice



Effects of *G. affine* on the MSU crystal-induced acute gouty arthritis mice



(原図の出典: Journal of Ethnopharmacology, Volume 203, 5 May 2017, Pages 304-311)

ハハコグサの抽出物は、マウスのオキシネートカリウム(PO)誘発性高尿酸血症を用いた実験モデルで評価され、抗高尿酸血症活性とキサンチンオキシダーゼ(XO)阻害活性が確認された。また、急性痛風性関節炎については、尿酸ナトリウム(MSU)結晶誘発性足浮腫モデルで評価され、主に腎mGLUT9およびmURAT1の効果により血清尿酸(Sur)を減少させた。また、顕著な抗炎症活性を示し、MSU結晶誘発性足浮腫モデルにおける足の腫れを軽減した。

一般的に、ハハコグサの抽出物は強い抗炎症作用や抗酸化作用を示し、漢方薬として、扁桃炎、気管支炎、閉塞性肺疾患、喘息、腎炎、関節リウマチ、高血圧の治療などにも使用されてきた。

